

神奈川県学童保育

第44回全国学童保育研究集会 in 京都

みなさんこんにちは、第53回全国研 in 神奈川の実行委員長を務めさせていただきました、とんちんこと、大和市保護者最終年度(!)の殿村です♪

昨年は本当にたくさんの方のおかげで、笑顔のあふれる盛大な集会になりました。私自身も色々な地域の方や全国の方とつながることができ、大きな宝物をいただくことができました、ありがとうございました。

さて、本年度の全国研 in 京都は17年ぶりの京都での開催とのことでしたが、「やはり京都に行くなら観光もガッツリしたいなあ」と、土曜の朝9時ころには京都に到着。京都駅付近で歩いて回れる文化遺産西本願寺、東本願寺を見学して、歴史の重さに圧倒されてから昼食を済ませて会場入りしました。

昨年、神奈川まで京都から下見に来ていただき、現場をたくさん手伝ってくれたスタッフの方々との再会を喜びながら、小雨のなか始まった歓迎行事。

【歓迎行事】京都市内碁盤の目に配置された東西の通り名の数え歌「まるたけえびす」は、“まりつき”“ゴム跳び”を交えながら。“もしかめ”と“高一輪車”のコラボ演技。東日本大震災復興「てをつなごうだいきくせん」プロジェクトソングの「手をつなごう」を歌とダンスで締めくくりました。歳を取って涙腺が緩んでいるので、子どもたちの演技にはいつもウルウルしてしまいます。

【特別報告】京都府の保護者田中さんは、自身もクラブOBで、アフロヘアと軽快な語り口で、地域を巻き込んだクラブの活動を報告。

被災地した地域からの報告では、熊本、岡山、広島、北海道、福島、宮城、岩手から報告を受けて、「本当に数年間で被災地が増えたなあ、大変な思いを続けている子どもたちや、指導員の先生のために、文字通り息の長い支援が必要なんだなあ」と改めて感じました。

【記念講演】池添素(NPO法人福祉広場)先生により「働きながらの子育て—子どもが自分で育つ力を育む」と題して、保護者として、指導員として、子どもに向き合うときの大きなヒントを、たくさん教えていただきました。

「子どもにはバッテリーの充電が必要！学校では100%でもうちに帰るころには赤電点滅。ごろごろしながらゲームに没頭しているわが子を見たら、お尻から充電コードがつながっていると思ってあげて。」

「みなさんがSNSでやっているように、子どもにもたくさん“いいね”してあげてください。」

【全国交流会】全体会会場の2階が交流会会場という絶好のアクセスの良さで、全国のみなさんと、京都のお酒、各地の差し入れのお酒など時間を忘れて飲んで語った2時間でした♪

【分科会】二日酔いもなく、ちゃんと参加できました。もちろん、ほかのみなさまもですよ。

私が参加したのは、第25分科会「働きながらの子育てと家族・家庭」池添素先生の講習です。リピーターも多い講座で午後からは、参加者の悩みについてカウンセリングしながら、進行していくという面白いスタイルでした。教室まで出張販売にきていた先生の著書「いつからでもやりなおせる子育て」「同第2章」を購入して全国研 in 京都を終わり、京都駅に向かう途中、夕暮れ時の伏見稻荷寄り道(^^) / (そのあと2泊したとんちんは一人観光三昧、3万2千歩/日、世界文化遺産巡り、仁和寺の初拝観観音壁画すばらしい)

来年の開催は山形県です。こちらもおいしいものもたくさん！（芋煮、米沢牛、玉コン etc）きっと研修も充実！ぜひ、みなさん参加しましょう！行くべえ！

全国学童保育連絡協議会総会が開催されました

「第54回全国学童保育研究集会 in 京都」開催に伴い10月20日(金)に長岡京市中央生涯学習センターにおいて、全国学童保育連絡協議会2019年度総会が開催されました。2018年度の活動報告、2019年度の「学童保育をめぐる現状と私たちの課題」と活動方針等が議論され、今後の重点的な取り組み等確認しました。役員を選出もあり、西田隆良氏が新会長として選出されました。神奈川県連協からは引き続き、木村美登里と山崎善明がともに副会長として選出されました。

また、2020年10月に開催される「第55回全国学童保育研究集会」を山形県で開催することが満場一致で承認されました。

神奈川県の学童保育を支える議員連盟との懇談（意見交換会）

11月23日（土・祝）ホテル横浜ガーデンにて、神奈川県の学童保育を支える議員連盟（以降、「県議連」）主催による意見交換会が行われ、県議連会員23人、連絡協議会から21人の参加がありました。

初めに、県議連の牧島顧問から「県議連がスタートし11年。『法のはざまから浮き上がる』をテーマに考えてきた。子ども・子育て支援の枠組みの中に位置づけられたが、これからが本番。全国・県内で高い水準で平準化することを考えていきたい。」とあいさつがありました。県議連小川会長も「この議連はまだ11年目と歴史が浅いが、県内の市町村議員にも声をかけ勉強会をするなど、先駆的な議連である。」とあいさつの中で述べられました。

また、県からは学童保育の担当部局である子どもみらい部 太田部長、次世代育成課 徳永課長、加藤グループリーダーが出席され、県の姿勢等について発言がありました。

太田部長は県内の状況について触れながら、「県として「市町村が進める『クラブ整備』」を支援していく。経過措置期間終了までに、希望するすべての現任者が支援員の資格が取れるよう認定資格研修に取り組んでいく。H29年度からキャリアアップ処遇改善とリンクした資質向上研修にも取り組んでいる。どの研修にも県連協に講師の派遣など協力をしてもらっておりお礼申し上げる。県としてはクラブの充実と共に、質、安全性が重要であると考えており、市町村に認定資格研修と資質向上研修の積極的な活用を働きかけていく。次世代を担う放課後児童の健全育成に向け、放課後児童クラブの現場や、国、市町村と手を携えてしっかりと取り組んでいきたいと考えているので、今後ともご理解、ご協力を願う。」とあいさつされました。

次に、加藤グループリーダーから資料を基に最新の放課後児童クラブの現状と、市町村担当課との会議の中での意見交換の状況について説明がありました。

その中で、県の子どもみらいプラン次期計画の中で新たに需給見込みを計画に位置付け、確実に進めていきたい。また、現時点で配置基準切り下げを予定している市町村はないと聞いている。

との話がありました。

その後質疑応答、テーブルごとの意見交換と続き、最後に各地域の指導員、保護者からそれぞれの現状を伝え、濃厚な時間を過ごすことができました。



神奈川県内の学童保育（2019年5月1日現在実施状況調査より）

- ◆ 学童保育の数は985か所（前年比1か所増）、1,465支援の単位（前年比8単位増）
公立小学校に対する設置率は79%（全国で38位）
* トップスリーは埼玉県（98%）、奈良県（96%）、山梨県・千葉県（95%）
- ◆ 入所児童数は53,275人（前年比3,663人増）
公立小学校児童数に対する利用児童数の割合は12%（全国で最下位）
* ワーストスリーは神奈川県（12%）、愛知県（14%）、大阪府（16%）
1年生から3年生の公立小学校児童数に対する利用児童数の割合は20%（全国で最下位）
* ワーストスリーは神奈川県（20%）、愛知県（22%）、大阪府（27%）

※「学童保育情報 2019-2020（全国学童保育連絡協議会発行）」、文部科学省学校 2019/5/1 現在基本調査をもとに作成



私のおすすめ「日本の学童ほいく」

毎月の運営委員会で、「私のおすすめ『日本の学童ほいく』」を地域持ち回りでご紹介いただいています。

10月は海老名市の須賀さんからのおすすめです。

2019年10月号特集「一人ひとりの生活を大切にする施設と環境—沖縄県の『施設整備の手引き（案）』（P.10～）より。

「そもそも保育園で普通に出来ていることが学童保育でできていなくて良いのか。生活の場として備えるべき当たり前の条件をあきらめているのではないか」そのような議論からつくられた沖縄県での「施設整備の手引き（案）」ですが、学童保育をあまり知らない人（新しい保護者や行政）に対して、学童保育としてのあたりまえの水準を説明するのは、自分としても難しいと思います。自分の常識が通じないこともあるので、客観視し、伝えていかなければと思いました。その他、「たのしいな」で紹介されている横浜の遊びが楽しそうだなと思いました。

須賀さん、ありがとうございます。皆さんもこの機会に、学童保育の施設と環境を見直してみませんか？

また、11月の綾瀬市の佐伯さんからのおすすめは…。

2020年11月号特集「保護者として出会いなおした学童保育」（P.12～）で、「安全」「衛生」「人手（指導員）不足」が壁となり行事があまりできない。その3点を盾にしているわけではないが、自クラブでもキャンプが2年前からしていないなど、やりたい気持ちはあってもできていない状況です。どうすればよいか（できるか）答えは出ていないが、「子どもたちの生活を豊かにする」ことに一番重要なところかと思いました。

とのこと、指導員不足の中行事に取り組むのはとても大変なことだと思います。保護者として、指導員とともに行事などに積極的に取り組むことで、我が子の放課後の生活を豊かにしていきたいですね。佐伯さんありがとうございます。

2019年11月号～12月号に掲載されている神奈川からの投稿

<2019年11月号> 特集「働きながらの子育て—支えあい、はげませれ」

- ★特集「日々の様子を伝えることを大切に」 横須賀市指導員 笹川瑞穂さん
- ☆子どもと家事を一緒に♪「うへみてね」 横浜市保護者 岡本 恵さん
- ★読者のひろば「これからも楽しむぞ！」 横浜市保護者 岡本 恵さん

<2019年12月号> 特集「考えよう学童保育指導員の仕事と労働条件」

- ★子どものひろば 川崎市学童ほいくオカリナ たくみくん（1年）
- 茅ヶ崎市みずたまクラブ のぞみさん（2年）
- 横須賀市まぼりっ子クラブ 元気くん（3年）
- ☆読者のひろば「秋のプレゼント」 横須賀市指導員 鈴木千鶴子さん

「第43回神奈川県学童保育研究集会」（通称「かな研」）のお知らせ Part.2

かな研実行委員会で、午後の分科会の検討をし、以下の分科会を持つことになりました。講師、内容、申し込み方法他詳細はリーフレットをご確認ください。（県連協ホームページからも申し込みができます）

ようこそ学童保育へ（入門）／指導員の仕事・実務／大丈夫？子どもとYouTube／今、学校で／どう伝える？性的話／保護者会の魅力／しゃべり場 子育てどうしてる？／障がいのある子どもを含めた生活づくり／子どもの人権を守るために／通信・おたより／実践記録を検討する／身近なもので作ってみよう！ジオラマの世界／神奈川県学童保育／災害時の子どもの心のケアを学ぶ

活動報告(10月～11月の主な活動報告)

10月1日(火) 県次世代育成課との懇談
 10月18日(金) 全国連協総会
 10月19日～20日 第44回全国研 in 京都
 11月11日(月) 県民連絡会分野別交渉

11月23日(月) 県議連との意見交換会
 他 第1木曜日 定例運営委員会を開催
 それに付随し、役員会、事務局会議を実施

♪ 地域連協だより ♪

平塚市連協だより

平塚市学童保育連絡協議会は、1976年から活動が始まり、今年で43回目の定期総会を迎えました。加盟学童は保護者会運営の7学童となりました。どこも、指導員と共に子育てをするという共同保育で成り立ち、「子どもたちが、身近な大人の背中や、お互いの関係性から様々なことを学び、たくさんの経験をとおして、周りと共にしながら自らの力で生きる力を身につけていけるように・・・」、「成長著しい小学生時代を親子の充実した時間にしたい」という思いを持った保護者のいる学童ばかりです。

とはいえ、利用者であり運営者でもある保護者は、自分たちの思いと実際に自分ができることへのGAPに苦しんでいるのが実情です。フルタイムで働く世帯が多く役員となり手が足りない、仕事・家事・育児に忙しい中での学童保育の運営や指導員の確保を大きな負担に感じてしまう。指導員も同様に、保護者の負担を減らしたい思いと自分たちの役割や出来ることの狭間で揺れています。

市連協として加盟学童の為に出来ることとして、要請のあった学童に対し会計支援を行ってきましたが、今の支援内容では足りなくなっており、法人化への検討を始めた学童も増えてきました。法人に移行する際、「連協、指導員会を抜けること」が条件提示される現状から、加盟学童の法人検討が進むことは連協として直近の大きな課題であると認識しています。

学童を取り巻く環境は時代と共に変化してきていますが、今も昔も変わらないこともあります。子どもは、親にとってはもちろんですが地域の“宝”であるということと、健やかな育ちの為には人との関わりからの学び・気づきが重要であるということです。

学童運営団体の属性がなんであれ、子どもの権利を最前に置き、放課後留守家庭の子どもの放課後、長期休みの時間がどうあるべきか？を運営者、指導員、保護者、学校、地域が共に考え、実現の為にそれぞれの立場で出来ることやるべきことを協力し進めていけるよう、連協に何が出来るのか、会をどのように存続していくか、地域連協の皆様のお知恵も借りながら考え、平塚の実態に合わせ実行していきたいと思っております。

それでは、1月の新春会長会、ほいく誌普及推進会議でお会いできること楽しみにしています。また、2月には、学童保育の発展と子育ての活力・栄養補給“神奈川県学童保育研究集会”と一緒に盛り上がりましょう！

次号の「地域連協だより」は逗子市連協の予定です。

お楽しみに！



神奈川県学童保育連絡協議会HP
[\(http://kanaken.onushi.com/\)](http://kanaken.onushi.com/)



<これからの主な予定>

- 1月19日(日)AM 「日本の学童ほいく」普及推進会議(横浜市社会教育センター)
- 1月19日(日)PM 新春会長会(横浜市社会教育センター)
- 2月24日(月・祝) 第43回神奈川県学童保育研究集会(横浜市開港記念会館他)

*その他、運営委員会は毎月第1木曜日、役員会は運営委員会の前の週の木曜日に実施しています。